

平成 31 年度(令和元年度)学校関係者評価報告書

上宮学園中学校・上宮高等学校
学校関係者評価委員会

(1) 平成 31 年度(令和元年度)の学校関係者評価委員会について

今年度の学校関係者評価委員会は、コロナウィルスの影響もあり、校内での集まりが困難であった為、学校評価関係者が一堂に会して評価を行う従来の方法を取らず、担当者がまとめた報告書を各委員に送付、そして意見を回収し取りまとめるという方法で実施をした。

今回使用した資料は以下の通りである。

- 1・平成 31 年度(令和元年度) 学校評価に関する各部署の総括
- 2・平成 31 年度(令和元年度) 学校評価に関する報告書
- 3・平成 31 年度(令和元年度) 授業アンケート分析
- 4・平成 31 年度(令和元年度) 保護者アンケート 集計結果

(2) 平成 31 年度(令和元年度)各部署の重点目標と評価項目について

上宮学園中学校・上宮高等学校では、「歴史ある建学の精神と教育目標は不易」であるが、「時代の変化にも適応しなければならない」という話のもと、各教科・各学年・各分掌で、年度当初に「目標」を設定し、目標達成の為の「重点課題」を設定している。年度末には、それぞれの「重点課題」について、A～D の評価を行い、「成果と課題」を表すことにしている。これをまとめたものが「学校評価の冊子」である。この冊子を見ることによって、各教科・各学年・各分掌の取り組みとその評価・成果・課題を一覧することができる。今年度の評価を見ると前年に引き続き C や D といった評価が散見されるので、引き続き一層の取り組みや努力が必要であるとの説明が校長からあった。

(3) 平成 31 年度(令和元年度)教員個人の自己評価について

各教科・各学年・各分掌で設定した「目標」および「重点課題」に従い、各教員が個人目標シートを作成している。個人目標シートでは、学年・教科・分掌での「本年度の取り組み課題」を設定し、「課題解決の手立て(方法)」を策定し、年度中期と年度末において、その遂行度と達成度をそれぞれ A～D の評価で自己評価を行っていることの説明があった。この A～D は、自己評価とし、A は「目標の達成ができた」。B は目標の「7割以上が達成できた」。C が目標の「4割以上が達成できた」。D が「ほぼ達成でき

なかった」で判定を教員につけてもらっている。

教育の変革の波の中、アクティブラーニングの研修を幾度となく実施し、IT 機器の導入と先生方の努力により効率的な授業展開がなされるようになった。

平成 31 年度(令和元年度)に完成した新校舎はアクティブラーニング・ICT に対応した設備が設置されており、ICT を利活用した授業展開は出来ている部類に入ると感じている。毎年利用法の改革、検討し、生徒たちにより高度な教育環境で学んでもらい、さらなる学力の向上に繋げて欲しいという意見をいただいた。また同じ教科においても利用していたり、利用がない授業の教員も見受けられるので、是非利活用を促進してもらい、利用頻度を増やして欲しいとの意見もあった。また個々の教員が、それぞれ課題を設定し、その課題に取り組んでいくことは、教員の資質の向上、ひいては生徒の成長にも大きく寄与されるので、教職員にも更なる研鑽を積んで欲しいという要望もあった。

(4) 平成 31 年度(令和元年度)授業アンケートについて

平成 22 年度から 1 学期末(7 月)と 2 学期末(12 月)に生徒に対して授業アンケートを実施していたが、平成 27 年度からは年 1 回、2 学期末(12 月)のみの授業アンケートの実施に変更となった。また今年度で 10 年目の実施となった。アンケート結果は集計され、各教員個々に返却されている。各教員は、そのアンケート結果をもとに、更なる授業の改善につなげている旨の説明があった。

アンケート結果をもとに、各教員が個人的に授業の改善に結び付けるだけでなく、授業見学や研究授業を通じて、もっと積極的に授業の改善に取り組んでいくべきである。教えるだけでなく、生徒たちが自分で考える力を養う授業方法も重要である。よりアクティブラーニング型の授業、探求力の向上が必要である。また新校舎が建設された事により ICT を活用した授業が、簡易に活用ができるようになった。これを授業する事により従来では難しかった動画の投影なども可能になっているので、さらに生徒の興味をひく授業を実施する必要がある事がアンケートからも確認されている。

(5) 平成 31 年度(令和元年度)生徒・保護者・教員アンケートについて

平成 22 年度から同じアンケート項目で、生徒・保護者・教員に対してアンケートを行った旨の説明があった。

保護者のアンケート結果では、毎年「学校生活」・「担任相談対応」・「担任指導」・「よい友人関係」などの項目が比較的評価が高いことは評価できるが、学習面の「学習習慣」・「授業工夫」・「学習意欲」・「授業の進み方」などの項目の評価が毎年、また今年度も変わらず低いことが非常に問題である。また、生徒のアンケート結果でも、同様に学習面の評価が低いので改善の必要がある。

平成 26 年度 2 学期から希望生徒に対して放課後に開講した大学合格講座※u ゼミが好評であった。また、平成 27 年度は更に充実した内容で大学合格講座を通年で開講し、

多くの受講生を集めていたが、生徒・保護者に対してのアンケート結果では昨年度に比べて大きな変化はなかったが、平成 28 年度においては、改善がみられ、平成 29 年度はさらに評価があがり、今年度においてもまた評価があがっている。引き続き内容の拡充を図っていく。新校舎が建設された事もあり、保護者のアンケート結果もさらに良好な評価を得ている。引き続き生徒・保護者の期待に応える学校づくりに邁進していく。